

せいきょう連ニュース

CO-OP 岡山県生活協同組合連合会 TEL: 086-230-1315



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

国際協同組合年岡山県大会開催 支え合いとつながる力で地域の課題解決を訴え



2025年9月27日（土）ホテルグランヴィア岡山にて、国連が定めた「国際協同組合年」に合わせて「国際協同組合年岡山県大会」が開催され、県内の協同組合の組合員約250名が参加、各協同組合の取り組みを相互学習するとともに、東京大学名誉教授・社会学者の上野千鶴子さんの記念講演で、支え合う社会の必要性を学びました。

主催者の岡山県生協連田中照周会長と共催の岡山県協同組合連絡協議会を代表してJA岡山中央会の青江伯夫会長からのあいさつの後、県内各協同組合からの活動報告がありました。JAグループから養殖かきの廃棄物だった「かきガラ」を農地改良に使った「里海米」の取り組み、岡山県生協連からはさまざまな生協が地域とともに豊かなくらしを作ってきていること、JF岡山漁連から海の生態系と環境を守るアマモの藻場再生の取り組み、岡山県森連からは木を伐（き）って、使って、植えて、育てるという循環でSDGsへの貢献を果たしていること、ワーカーズコープ・センター事業団から、共に生き共に働く社会をめざして地域や協同組合と連携した働き方を追求していることが報告され、協同組合がさまざまな場面で役立っていることが紹介されました。

全農おかやま
佐賀県本部長岡山県生協連
市川理事日生町漁協
天倉専務県森連
池上事業部長ワーカーズコープ
奥田マネージャー

記念講演

「弱さを力に変える。」

上野千鶴子が語る『つながる力が拓く社会の未来』

講演では、女性学・ジェンダーに関する知見や、高齢者の介護とケアの現場を多く見てきた経験に裏付けられた、介護をめぐるさまざまな課題が提起されました。それらを通じて、弱さを認め、支え合って生きていくことや、自分が当事者であることを自覚し自分らしく生きていくことの重要性、分散して依存先を持てることが自立するということである、など支え合いにつながり合うことの重要性が力強く語られました。そのためにも介護保険を本来の趣旨を生かせる制度にしていける必要があること、そして、社会は変わってきたが、これは「変えてきたから」であり、これからも学び、主張していくことが必要だと締めくくりました。

会場からは若い女性からの質問も出て、そこへの明快で励ましのある上野さんの回答に会場から拍手が起こるなど、和やかな雰囲気の中にも多くの学びを持ち帰った講演になりました。



県副知事との懇談、 県行政との定期懇談会を開催

岡山県生協連では、生協と行政の関係づくり、相互理解の促進に向けて、10月27日（月）、尾崎裕子副知事、県民生活部くらし安全安心課と懇談を持ちました。

●尾崎副知事との懇談



生協連からは、田中会長、岩松副会長、安井副会長、大同常務、市川理事、正保理事が参加、買い物困難者への対応や医療生協の無料低額診療対応、災害支援や子ども食堂応援などの社会的取り組みの特徴的な動きなどを報告しました。尾崎副知事からは、過疎対策や買い物困難者対応など社会課題は国の施策は細かいところに行き届かないこともあるので、生協との連携できめ細かい住民対応を期待していること、医療生協の無料低額診療やコロナ時の対応も高く評価され、今後も生協の取り組みを知り、県行政と連携していくため、情報交換をしっかりとっていくこととしました。



尾崎副知事(中央)と

引き続き、くらし安全安心課との懇談では、岡大生協の加藤専務、志賀消費生活懇談会委員（おかやまコープ）にも参加いただき、次年度からの「第5次岡山県消費生活基本計画」素案について、公正で持続可能な社会を目指した消費生活の促進」などの政策推進に関して、大学生協を通じて感じる若者の消費リテラシーの状況などについて意見交換を行いました。また、今回は交通安全班から頼則総括参事が参加され、自転車保険への意識喚起や加入の徹底を行うため、若者への周知や大学生協を通じた啓発の可能性についても意見交換を行いました。



第38回岡山県消費者大会開催

《記念講演》南海トラフ巨大地震に備える～「孤立する」岡山でどう生き延びるか

10月10日（金）、第38回岡山県消費者大会がオルガホール（岡山市北区）、会員団体サテライト会場、Zoom配信で開催され、14団体、計120人余りが参加しました。

記念講演では、兵庫県立大学教授の木村玲欧（れお）さんから、南海トラフ地震は30年以内に60～90%の確率で起こ



講師 木村さん

るとされていますが、これは交通事故にあう確率の3倍程度であり、岡山県でも家具や家の倒壊、そして死者の大半は津波によると想定されていることをまず押さえました。それでも、岡山県は相対的に被害が小さい方で、他地域からの支援は届かないと考えたほうがいいこと、その中で大切なのは、しっかりとした「知識」（メカニズム、被害想定、避難方法など）と「備え」（訓練、備蓄など）であり、特に備蓄に関しては日頃から無理せずに（だらだらでよい）進めるコツを紹介し、大変参考になったとの声が多くありました。

団体活動報告では、こくみん共済coop岡山推進本部の大束（おおつか）さんから、「岡山推進本部における防災・減災の取り組み」、青年法律家協会岡山支部の森岡さんからは、「青年法律家協会岡山支部の活動報告」として、日ごろなじみが薄い弁護士による平和と民主主義を守る社会活動や情報発信の取り組みが報告されました。



大束さん



森岡さん

第40回中四国生協・行政合同会議に参加しました

9月4日（木）、中四国9県の生協と県行政が一堂に会し、第40回中四国生協・行政合同会議が高知県のザクラウンパレス新阪急高知にて開催されました。生協、行政合わせて88名が参加し、岡山県からも5名が参加しました。「地域の暮らしを支える連帯・連携」をテーマに、地域の課題に対し生協と行政がどうかかわれるか、意見交換が行われました。

基調講演は、桑名 龍吾 高知市長による「人口減少時代におけるまちづくり戦略～こうち生活協同組合との包括的な連携事例～」、黒岩 之浩 安田町長による「共に生き 未来につなぐ 安田町～みんなで創る 共生空間～」の2題で、高知市での人口減少対策プロジェクトでの共働きを徹底的に支援する取り組みや生協との連携、安田町の住民と行政の対話と協働でのまちづくりの事例が紹介されました。



桑名市長



黒岩町長

続いて、地域づくりに関する実践事例報告として高知市社会福祉協議会から「高知市ほおちょけんネットワーク」、高知医療生活協同組合から「くらしといのち何でも相談会」の取り組み事例報告を受け、生協、行政合同のグループ交流で地域づくりへの関わりについて幅広く意見交換を行い、それぞれの地域での実践のヒントを持ち帰りました。



おかやまコープ

県内178の子ども食堂に食品贈呈 —22の社協・NPO法人と協働

おかやまコープは、「子ども食堂」や居場所づくりなどの活動に取り組む県内178カ所のグループに、キャノーラ油やカレールー、お菓子などのコープ商品やお米などの食品を贈呈しました。

この取り組みは、物価高騰が継続する経済状況の中で厳しい運営を強いられながらも活動する「子ども食堂」などを応援するため、22の社会福祉協議会（以下、社協）やNPO 法人と協働して行われたものです。

お届けする食品は、「おかやま育ち」商品利用1点につき0.2円積み立てられる「コープ地域づくり協働基金」を活用しています。

12月3日に倉敷市社協、4日に赤磐市社協、12日に総社市社協への贈呈式が行われました。



倉敷市社協への贈呈式 [12月3日]



おかやまコープ 徳山雅昭専務理事
による鉄入れ [9月25日]

コープ総社東建て替え工事に着手

コープ総社東（総社市総社1370-3）は、建て替え工事に先立ち、9月25日に地鎮祭を執り行いました。当日は、片岡聡一総社市長をはじめ、地権者様、テナント各社の皆様、設計・施工を担当いただく関係者の皆様、おかやまコープ関係者が参列し、備中国總社宮の宮司により着工から完成までの無事を祈願しました。

その後、工事に係る各種申請と「大規模小売店舗立地法」に基づく申請が受理され、10月下旬の地域住民向け説明会を経て、11月初旬より工事を開始しています。営業再開は2026年3月末を目指しております。

倉敷医療生協

川ごみの回収調査活動

倉敷医療生活協同組合の環境委員会・医療生協支部と、地元の小学校の放課後子ども教室運営委員会、水島地域環境再生財団が合同で11月15日に「川ごみ回収調査」を行ないました。この活動は、定点で年2回実施を始めて今年で4年目となります。

わずか40分程の回収時間で26kgを超えるごみが回収でき、プラスチックやビン・缶など分別調査をしました。また、付近の土壌をとってマイクロプラスチック調査も行ない、学習を深めました。



活動した組合員と回収した
大量の川ごみ



船上で海ごみや貝殻などの中から
エビなどを分別する参加者

海ごみの回収調査活動

倉敷医療生活協同組合の環境委員会と水島地域環境再生財団が合同で、12月5日に「海ごみの回収調査」を行ないました。

20年近く海ごみを回収している地元の漁業者の方の協力を得て、組合員が底引き網漁船上で魚介類とごみを分別する作業をおこない、回収したごみの処分方法なども学びました。

回収を始めた当時のお話から現在の状況などを伺い、海の底のごみが日常生活と繋がっていることを目の当たりに学習することができました。

三井造船生協

「75周年記念×グルメフェスin 玉の輪祭り」開催

11月23日（日）、三井生協創立75周年を記念したイベント「75周年記念×グルメフェス」を開催しました。今回は玉野商工高校主催の「玉の輪祭り」との合同企画として実施し、多くのお客様にご来場いただきました。記念企画では、三井生協75年の歩みを振り返る「三井生協75年史」や家庭会活動、国際協同組合年に関連した展示を行い、組合の歴史と活動を広く紹介しました。また、同じく75周年を迎える鳥取県生協とのコラボレーションとして、鳥取県の物産品や限定商品を販売し、好評をいただきました。

恒例となった「野菜詰め放題」や「ビー玉を掴んで卵をお得にゲット!」には多くの方が挑戦し、盛り上がりを見せました。さらに、お子様向けには「スーパーボールすくい」や「SDGs輪投げ」などの催しもあり、家族連れで賑わう一日となりました。



祭りに先立ち、前日の22日「家庭会チャリティーバザー」が、当日もミニバザーが本部店3階特設会場にて開催され、組合員の皆様からご提供いただいた日用品や食器、衣料品などで、計207,410円となり、全額玉野市へ寄付しました。寄付金は放課後児童クラブの玩具購入に充てられる予定です。地域の子どもの笑顔につながる、温かい支援となりました。



12月5日、久留島会長から柴田市長へ寄付



岡山医療生協

「未来へつなぐ健康フェスティバル」を開催しました。

11月23日、岡山協立病院は創立65周年という節目を迎え、地域のみなさまへの感謝と未来への歩みを共にすることを目的として、病院主催イベントを開催しました。当日は晴天にも恵まれ、約4,000名の来場があり、会場は朝から夕方まで多くの親子連れや地域住民のみなさまで賑わいました。

医療や健康をテーマとしながらも、楽しさと学びが両立した構成としたことで、子どもから大人まで幅広い年代の方が気軽に参加でき、終始笑顔があふれるイベントとなりました。

企画のひとつには、「メイクセラピーを医療現場に」と活動しているプロジェクトチームによる「ファッションショー」を開催しました。メイクの力でいきいきとステージを歩く姿は参加者の感動を呼びました。



津山医療生協

他の協同組合から学びました

津山医療生協では国際協同組合年ということで、この秋、津山信用金庫の方に講師を依頼し、2会場で終活セミナーを開催しました。エンディングノートを基にしてデジタル時代に即した、残された家族に知っておいてほしいことについての書き方を丁寧に教えていただきました。また夏にはおかやまコープの方の協力のもと、折り鶴ブローチを作る取り組みと平和の話を夏休み応援企画として行いました。今年で終わらず今後も協同組合間の連携を深めていければと思います。



岡山県学校生協

「人権学習」を開催

岡山県学校生協では、教育支援のひとつとして、「人権学習」の開催に取り組んでおります。

内容は、人権学習においての上書き更新“アップデート”を柱に、人権獲得の歴史に学びつつ昨今の状況変化をどう人権の学びに繋げていくかという視点で、クイズやグループワークの手法を取り入れながら、ともに学び合う姿勢を大切に展開しております。

参観授業や PTA 人権講演会、教職員研修などにご活用いただき、2025 年度は9校区で開催しました。



岡山大学生協

「大還元祭 生協キャンペーン」を開催！

毎年11月に岡山大学生協では、「大還元祭 生協キャンペーン」を1～2週間ほど開催しています。学生の「ガラポン抽選会」の企画や、オリジナルグッズを考えて頂くコンテスト企画、食堂の混雑時間帯以外にご利用頂くとプレゼントを差し上げる「ピークオフキャンペーン」などを行いました。

特に「ガラポン抽選会」には多くの組合員の方にご参加頂くことができました。



グリーンコープ生協おかやま

FP円縁学習会「マイ・ノートを作ろう」開催

11月12日（水）西ふれあいセンターにて開催しました。マイ・ノート（エンディングノート）をきっかけにして情報や物を整理し、自分の思いと家族の思いを共有しておくなど、少しずつ出来ることから準備をすることの大切さを学びました。また、グリーンコープが実施していることも基金の理解を深めるため、基金の原資の一つである菓子パンを用意し、基金の取り組みを伝えました。



生産者交流会開催

11月18日（火）にイサミ吉備高原牧場にて活動組合員対象の見学交流会を行いました。イサミ吉備高原牧場では産直国産牛の飼育を行っています。飼料ごとに給餌時間を変えたり飼料の内容を工夫



したりすることで、牛のゲップに含まれるメタンガスの排出にも配慮されています。また、畜魂碑に献花をし、参加者全員で手を合わせ、命を頂いていることに感謝しました。見学終了後は、イサミ吉備高原牧場や肉のパッカーである株式会社イサミの皆さんと交流を深めました。

こくみん共済 coop 岡山推進本部（岡山県労済生協）

「くらしき防災フェア」出展報告

2025年11月23日（日）にボートレース児島駐車場において、令和7年度倉敷市総合防災訓練として「くらしき防災フェア」が開催され、「わくわく！体験エリア」にて「キッズぼうさい迷路」を出展しました。会場にはその他、「なるほど！体験エリア」「大集合！働く車エリア」や「キッチンカーエリア」があり、全64団体が出展し、来場者は約12,000人にもなりました。

メインステージでは、10:45より岡山大学・岡山市と当会による産学官連携で制作した「ぼうさいPiPi!ダンス」を、『みんなで踊ろう！「ぼうさいPiPi!ダンス」』として、当会の公式キャラクター「ピットくん」だけでなく、各社の着ぐるみとダンスを行い、会場を大いに沸かせました。

今年は天気も良く、参加者へのノベルティとして6年保存できる「非常用ウェットタオル」を600個準備していましたが、すべて配布するほど大盛況でした。



就実生協

学んだことを実践へ-初の予防活動に挑戦



就実生協では、2025年夏の全国共済セミナーで学生委員と職員が学んだ内容をきっかけに、「予防提案活動」として「自転車点検」と「給付事例ポスターの掲示」に初めて取り組みました。

日常のリスクに気づき、事故を未然に防ぐことの大切さを学生自身が発信する活動です。今後は継続的に実施するとともに、参加者をさらに広げ、他の予防活動にも発展させていきたいと考えております。



ナガサキで平和の継承活動を学習

岡山県生協連では、2025年度の重点テーマの被爆・戦後80年の取り組みの一環として、会員生協役員、幹部職員を対象にした「他生協等訪問研修」として11月25日（火）～26日（水）に長崎を訪問し、被爆体験語り部活動や高校生平和大使との交流を通じて、これからの平和の活動で欠かすことができない「継承」を考えていく学習研修を行いました。

●「家族証言者」調（しらべ）さんの講和

被爆者が高齢化する中、被爆体験伝承者を全国に派遣する活動を行っている調 仁美さんの話を聞きました。義父の被爆体験をきっかけに、語り部活動から被爆体験の伝承に携わるに至った想い、聞いた人の反応などを語っていただきました。調さんには、原爆資料館見学の際にガイドもしていただき、展示物の背景などより深く理解することができました。



原爆資料館見学



平和祈念館会議室で調さんから話を聞く

●高校生平和大使と交流

1998年から毎年国連機関を訪問し核兵器廃絶と世界平和を訴え、「1万人署名」活動を続けてきた高校生平和大使の活動とその中での想いを4人の高校生とその運動を支えてきた先生から聞きました。小中学校での平和教育を受け、署名活動などでさまざまな生の声に接したからこそその感性、音楽やスポーツを通じた訴えかけを实践するなど若者ならではの発想、それをしっかり自分の言葉で語る姿に感銘を受けました。

その後、訴えても伝わらない時どうするか、周囲の大人に何を期待するかなど参加者からの多くの質問にも率直に答えていただき、今後の活動につなげていく学びの多い場となりました。



高校生平和大使(手前4人)と平野先生(中央)

2025年度組合員活動交流集会のご案内

《テーマ》人口減少社会にどう立ち向かうか

日時 2月17日(火) 13時～15時

会場 オルガホール、オンライン視聴

講演

「縮充する地方
～参加が創り出す
人口減少社会の希望」

【講師】 やまざき りょう 山崎 亮 さん

studio-L代表。コミュニティデザイナー、
関西学院大学建築学部教授、社会福祉士



生協の取り組み報告

- おかやまコープ
「おかやまコープの地域社会づくり
課題への取り組み」
- 倉敷医療生協
「医療生協たまりばでのボランティア
活動について」

応募締め切り

2月6日(金)



お申し込みは
こちら→

詳しくは、各生活協同組合、または岡山県生協連へ。